

年間研修計画の工夫

小学校

児童の実態を把握し、適切な支援を行うための取組

活用した資料
校内研修プログラム P20
－実態把握、支援方法の検討－

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする児童への指導方法等について、年に複数回、校内研修の中で教職員が情報交換を行っています。

情報交換の場では「校内研修プログラム」の活用はもとより、北海道発達障害者支援センターや特別支援学校、町役場の保健福祉課と連携し、対象児童の経過観察と学習面や日常生活での指導方法等についてアドバイスを受けています。

右の写真は、アドバイスを受けて改善した、特別な教育的支援を必要とする児童にとって分かりやすくなるよう配慮した掲示物です。校内研修において教職員に提示することにより、「ロッカーの片付け」や「姿勢や鉛筆の持ち方」など、全校で統一した取組が進められるようにしました。

また、校内研修では、児童への支援だけでなく、保護者の心情に寄り添った対応についても研修内容に位置付けました。

月	内容
4	校内研修プログラムの活用 ・実態把握、支援方法の検討
5	発達障害者支援センター、特別支援学校等と連携した指導方法等の検討

特別支援教育にかかわる研修の内容



整理した棚



全校で統一した掲示物の一部

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育にかかわる研修等を計画的に行ったことにより、全ての児童にとって分かりやすい授業づくりについての教職員の理解が深まりました。

このことにより、特別な教育的支援を必要とする児童へのかかわり方や、分かりやすい掲示などについて、教職員全体で共通理解を図り、実践に結び付けるようになるなど、校内の特別支援教育の充実につながりました。

年間研修計画の工夫

小学校

校内支援体制の充実に向けた取組

活用した資料

校内研修プログラム P21、22、25

- －発達障がいの特性の理解－
- －個別の指導計画の作成－
- －個別の教育支援計画の作成－ほか

○ 実践の概要

本校では、学校がチームとなり、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援を充実させるため、通常の学級の担任を中心に特別支援部会や校内委員会を定期的に設定し、児童の実態に基づいた個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成について、共通理解を図っています。

また、校内研修会では、特別支援教育コーディネーターを中心に「校内研修プログラム」の研修シートを活用し、児童一人一人の実態を踏まえた日課表を作成するなど、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援について教職員の理解を深めています。

○ 具体的な研修内容（全4回）

- ① 発達障がいの特性と支援の在り方
 - ・研修シート（試案）Ⅰ－ 1 発達障がいの特性の理解の活用
- ② 個別の指導計画の必要性と作成について
 - ・研修シート（試案）Ⅱ－ 1 個別の指導計画の作成の活用
- ③ 個別の教育支援計画の作成と活用について
 - ・研修シート（試案）Ⅱ－ 2 個別の教育支援計画の作成の活用
- ④ 保護者とのかかわり
 - ・研修シート（試案）Ⅲ－ 1 学級づくり③障がいの理解

2 保護者に、障がいの理解を深める取組の交流

項目	取組事例	各項目ごとの取組交流
※記入例 一人一人のよさの 啓発	※記入例 ○保護者会等で、子ども一人一人のよさや違いを認め合う学級づくりを行うことについての説明 ○お便りなどで、子ども一人一人のよさを紹介する機会の設定 ○子ども一人一人に活躍の機会を与える場の設定	

校内研修プログラム研修シートⅢ-1



校内研修の様子

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育にかかわる校内研修を年間計画に位置付けた実践を通して、特別な教育的支援を必要とする児童一人一人の障がいの特性や状態等に応じた指導や支援の充実を図りました。

その結果、学校がチームとなり、全ての児童に分かりやすい授業づくりが全校的に進められ、児童の学習意欲の向上が図られるようになりました。

年間研修計画の工夫

小学校

校内研修の年間計画に特別支援教育の内容を位置付けた取組

活用した資料

校内研修プログラム P23

ー学級づくりー

○ 実践の概要

【定期的研修】・・・年間計画に位置付けた研修

- ① 生徒指導情報交換会 年間10回実施。児童の実態（C R T、Q-Uの結果を含む）について、共通理解を図る生徒指導事例研修等を行い、予防的・積極的な指導を行う。
- ② こんぱす懇談会 年間4回 保護者と学級担任、特別支援教育コーディネーターの三者面談を通して、家庭や学校での児童の様子を交流し、細かな実態把握を行う。

※こんぱす・・・A町が策定した個別の教育支援計画

【不定期研修】・・・講習及び事例研修

- ① 発達障がい支援成果普及事業の取組として、発達障害者支援道東地域センター職員による、特別な教育的支援を必要とする児童の観察と助言、障がい特性の理解等についての校内研修を行いました。
- ② A町教育委員会の外部評価委員である大学教授による、特別な教育的支援を必要とする児童の観察と助言等についての校内研修を行いました。



疑似体験の様子

<年間研修内容>

月	学校行事等	定期的研修		不定期研修
		生徒指導情報交換会	こんぱす	
4	入学式	25日 学級経営交流	1回目懇談	29日 「児童の状況と対応」
5		10日 Q-U結果 気になる児童の交流		
6	運動会	20日 朝の過ごし方を交流	2回目懇談	1日 大学教授による研修 「児童観察と助言」
7	夏休み	18日 こんぱすの情報を交流		13日 センター職員による研修 「見え方や聞こえ方等の体験を通して児童理解を深める」

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育に関する研修を年間計画に位置付けたことにより、児童の実態把握の方法など、全教職員が特別支援教育の基本的な理解を深めることができました。

また、見え方、聞こえ方などの疑似体験を取り入れた演習を行ったことにより、特別な教育的支援を必要とする児童の視覚や聴覚の特性はもとより、心情面に寄り添った指導や支援の重要性について、共通理解を図ることができました。

年間研修計画の工夫

中学校

外部の関係機関と連携を図った 校内研修の取組

活用した資料

校内研修プログラム P19、20

- －発達障がいの特性の理解－
- －実態把握、支援方法の検討－

○ 実践の概要

◇校内子ども支援委員会のスケジュールの確認

本校では、教職員の異動もあることから、年度当初に校内子ども支援委員会の年間スケジュールを全教職員で確認し、4月に実施している第1回目の校内子ども支援委員会で今後の対応について確認しています。

- 校内研修プログラムの活用による、障がいの特性の理解や実態把握、支援の充実
 - ・教室環境やチーム・ティーチングなど授業中における支援の工夫
 - ・授業以外の活動における支援

◇外部関係機関との連携の継続

- 療育機関、病院、特別支援学校等との連携を継続することにより、障がい特性に基づく支援方法や、対応の仕方についての理解を深め、全教職員による支援の充実
～事例研修での助言～
 - ・子どもの「発達」や「特性」を正しく理解する。
 - ・困っていることや、問題行動の背景にあるものを理解する。
 - ・視聴覚教材の活用など伝わりやすい指導の仕方 等

◇保護者との連携の充実

- 学級担任と保護者の連携はもとより、外部機関の専門家によるカンファレンスを行うことで、子どもへの指導や支援について共通理解を深め、学校と家庭の連携による支援
 - ・家庭との連携
 - ・関係機関との連携

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育に係る校内研修を年間研修計画に位置付け、生徒一人一人の特性及び指導や支援の重要性について、共通理解を図ることができました。

また、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導方法や配慮事項を明確にしたことで、教職員の共通理解を図り、校内支援体制を充実させることができました。

さらに、外部機関の専門家によるカンファレンスを保護者と教員が一緒に受けたことにより、学校と家庭が連携しながら、指導や支援に取り組むことができました。

年間研修計画の工夫

高等学校

校内にインクルーシブ教育システムの理念を周知する取組

活用した資料
実践事例集 P32
ー授業づくりー

○ 実践の概要

本校では、学校全体で特別支援教育を推進するため、教職員を対象とした校内研修を実施するとともに、ピアサポートトレーニングの手法を用いて生徒が特別支援教育について考える機会を設定しています。

教職員を対象とした校内研修では、職員会議など諸会議の短い時間を利用し、特別支援教育コーディネーターや学級担任からの情報提供を基に、特別な教育的支援を必要とする生徒の支援の状況について交流を行うとともに、年間2回外部講師を招へいした研修や hyper-QU を用いた分析会議を実施しています。

生徒が特別支援教育について考える取組では、アイマスクを着用しての歩行や、話し言葉を使わない状態で、「指定された血液型の人物を探し、サインを集める」などの疑似体験を通して、視覚障がいや聴覚障がいなど、障がいのある人の気持ちを理解するための学習に取り組んでいます。疑似体験終了後には、生徒が共生社会を意識して社会生活を送ることができるよう振り返ることを大切にしています。



疑似体験の様子



振り返りの様子

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育にかかわる内容を研修計画に位置付けたことにより、生徒一人一人の実態に応じた指導や支援について理解を深めることができました。

また、教職員だけでなく、生徒が疑似体験を通して、障がいのある人の気持ちを理解したことは、障がいのある人と接するときに、どのようにかかわるとよいか考えるきっかけになりました。

これらの取組を通して、学校全体で特別支援教育を推進する機運が高まってきました。

年間研修計画の工夫

高等学校

研修年間計画に特別支援教育にかかわる内容を位置付けた取組

活用した資料

校内研修プログラム P 4
 ー校内研修プログラムの年間の
 活用例ー

○ 実践の概要

<校内研修の年間計画>

月	内 容
4月	特別支援教育校内委員会において特別な教育的支援を必要とする生徒の把握
5月	中高一貫推進委員会の特別支援部会において特別な教育的支援を必要とする生徒の引継ぎ
6月	特別支援教育校内委員会において教材・教具の工夫と改善
7月	特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業の活用
8月	特別支援教育に関する先進地域の視察
9月	特別支援教育に関する校内ミニ研修会

本校では、校内研修プログラムを参考に、年間を通して月に1～2度、特別支援教育に関する研修を行うとともに、研修便りを発行し、教職員の専門性の向上を図っています。

研修を行うに当たっては、教職員の研修ニーズをもとに、特別支援教育コーディネーターが中心となって研修内容を調整し、研修の充実を図っています。

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育校内委員会を中心として、組織的に研修に取り組むとともに、本時の流れやキーワード等を表示し聴覚を支援するモニター・スクリーンや、単語や短文を表示することで記憶を支援するフラッシュカード、単語カルタの活用などによる、授業場面において生徒の実態に応じた教材・教具を工夫することにより、学校として具体的な指導や支援の充実を図ることができました。

特別支援教育に関する内容を年間計画に位置付ける工夫

小学校

校内支援体制の充実と関係機関及び家庭との連携

活用した資料

校内研修プログラム P19、20

－発達障がいの特性の理解－

－実態把握、支援方法の検討－

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援の充実を図るため、次の取組を進めています。

○ 「A小学校特別支援教育年間計画」の作成

特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援を行うに当たっては、4月に保護者と個別懇談を行った上で、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成しています。これらの計画を活用し、校内での研修交流会や、保護者との懇談を実施するとともに、子ども発達支援センターとの継続的な連携を行っています。

○ 組織的な研修の充実

校内研修では、全教職員が個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成の意義について共通理解を図ることができるよう、「校内研修プログラム」に掲載されている「障がいの特性の理解」や「実態把握・支援の方法の検討」の項目を活用しています。

○ 保護者に対する特別な教育的支援についての説明

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童へのきめ細かな支援の充実に向け、保護者向けの通信を配付したり、全家庭を対象とした教育相談会を実施したりしています。

○ 教職員間の連携と関係機関との連携

全教職員による日常的な観察に加え、学級通信を活用した情報提供を放課後等の短い時間で実施するなど、教職員間の連携を図っています。

また、特別な教育的支援を必要とする児童

への授業等における指導や支援の在り方等を検証するため、発達支援センター職員による指導・助言を受けています。



保護者向け通信

○ 実践の成果

本取組では、校内での研修交流会において、児童一人一人の障がいの特性の理解や実態把握、支援の方法を教職員間で共有したことにより、全ての児童にとって分かりやすい授業づくりが行えるようになってきました。

また、保護者に向けた通信を活用し、特別な教育的支援について説明したことにより、保護者の理解を得ることができました。

特別支援教育に関する内容を年間計画に位置付ける工夫

中学校

授業づくりを中心とした 校内研修の取組

活用した資料
実践事例集 P26
ー授業づくりー

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする生徒への授業場面における支援の在り方を年間計画に位置付けて取り組んでいます。

例えば、8月の校内研修では、専門家を招いて、実践事例集の「中学校～授業づくり」のページを参考に、授業中の生徒への指示にかかわる意見交流を行いました。



校内研修の様子



課題の提示



課題の提示



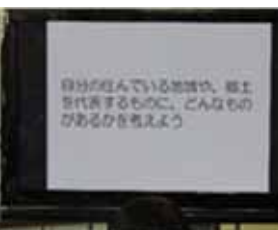
写真による提示



動画視聴の様子



まとめの提示



テレビの活用

＜交流した内容＞

- ・ 本時の目標を端的に提示すること。
- ・ 授業の流れをあらかじめ提示すること。
- ・ 一度に2つ以上のことを指示しないこと。
- ・ 次の指示をするときは、指示が聞ける態勢になってから行うこと。
- ・ 指示や説明は、端的に行うこと。
- ・ 指示が伝わっているか、その都度、確認をすること。
- ・ 口頭だけの説明や指示だけではなく、掲示物や画像等も活用すること。
- ・ 授業の終末では、本時の目標確認も含めたまとめを行うこと。

○ 実践の成果

本取組では、授業づくりにかかわり、本時の目標や授業の流れ、言葉による指示を明確にすることについて教職員間で共通理解を図りました。

その結果、特別な支援を必要とする生徒が学習に集中できる時間が長くなり、学習内容の定着や理解の深まりにつながりました。

特別支援教育に関する内容を年間計画に位置付ける工夫

中学校

通常の学級における特別な教育的支援の実践を共有する取組

活用した資料

校内研修プログラム P33

—実態把握・支援方法の検討—

○ 実践の概要

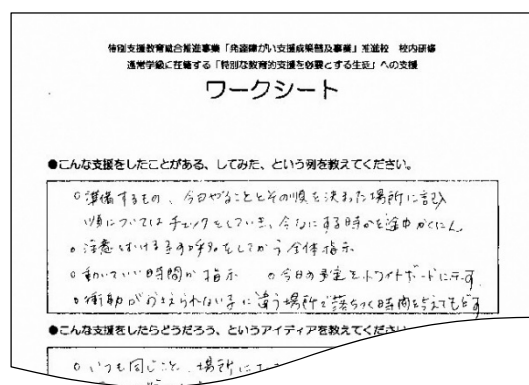
＜校内研修での取組＞

本校では、校内研修において、発達障がいの特性や支援方法のアイディア、今後の取組の共有について交流し、教職員間で共通理解を図っています。

- ・発達障がいの特性の確認……生活上、学習上の困難を確認しました。
- ・支援のアイディアの交流……ワークシートによる事例交流を行いました。



教科書の該当ページ等を明示した黒板



支援事例ワークシート

＜今後の取組の共有＞

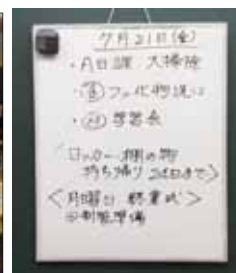
交流の結果を踏まえ、各教科で統一した板書や朝の会における連絡事項の提示など、視覚的な手掛かりを効果的に活用することについて全職員で確認しました。

＜その他の取組＞

職員会議等の時間を利用し、「校内研修プログラム」P77～79を用いて、話題提供や交流を行いました。



授業の様子



朝の会の連絡事項

○ 実践の成果

本取組では、校内研修終了後に、支援事例についてのワークシートを一覧にまとめ、共有し、全校で授業づくりや学校生活全般での指導に活用しました。特に、朝の会の連絡事項の提示は、生徒への伝達が円滑になりました。

また、連絡事項を記載したボードを終日教室に掲示したことにより、休み時間に日課等を確認する生徒がいるなど、効果が見られるようになりました。

特別支援教育に関する内容を年間計画に位置付ける工夫

高等学校

障がいの理解を深め、指導上の課題や解決の方向性を検討する取組

活用した資料
校内研修プログラム P51
－学級づくり－

○ 実践の概要

本校では、特別支援教育に関する内容を年間研修計画に位置付け、校内研修を実施しています。

研修内容は、特別な教育的支援を必要とする生徒の指導や支援に関する基礎的な内容を取り上げています。

今回の研修では、発達障がいの特性を理解するため、研修用の映像を視聴しました。

この資料は、発達障がい者のインタビューや疑似体験の映像も含まれていたことから、支援の必要な生徒の日常生活や学校生活における困難さについて理解を深めることができました。

視聴後には、「hyperQ-U」や「ほっと」等の結果も踏まえ、学年ごとのグループにおいて本校の生徒が実際に困っていることなどを交流し、適切な支援について検討しました。

その際、スクールソーシャルワーカーからの「障がいに関する基礎的な知識を習得するとともに、生徒の様子について教師が互いに情報共有し、指導の一貫性をもつことが大切である」との助言を参考に、生徒が「その時、何に困っているのか」について協議を行い、具体的な支援の内容や方法を検討し、全教職員で共通理解を図りました。



学年協議の様子



スクールソーシャルワーカーによる講演

月	内 容
6 月	hyperQ-U（全学年）
7 月	学校適応感尺度アセス、子ども理解支援ツール「ほっと」（全学年）
10 月	hyperQ-U（1・2年）
12 月	学校適応感尺度アセス、子ども理解支援ツール「ほっと」（全学年）

生活指導ユニット 指導計画

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育に関する内容を年間計画に位置付けたことにより、学校生活全般において、生徒の言動をこれまで以上に積極的に見取り、情報共有を図ることの大切さを教職員間で確認しました。

その結果、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援の充実が図られるようになりました。

特別支援教育に関する内容を年間計画に位置付ける工夫

高等学校

生徒アンケート により授業場面の成果を検証する取組

活用した資料
実践事例集 P30-33
ー授業づくりー

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする生徒が複数名在籍していることから、生徒の実態を踏まえ「全体への配慮と個別の支援の両面で考えること」や「少しの工夫で行うことができる支援を考えること」を観点に、「全ての生徒にとって分かりやすい授業づくり」に取り組んでいます。

具体的には、年度途中に授業公開週間を設け、授業づくりに関する「発問、指示」や「板書」「教材」などの項目について、授業評価表を活用した評価を行うことで、指導方法の共有と授業力の向上を図っています。

また、取組の成果を検証するために、生徒への「授業改善アンケート」を実施しており、その結果を踏まえて授業改善を行っています。

「授業改善のためのアンケート用紙」 【生徒用】 年—※必ず記入

※次の各項目について①②③④のいずれかに一つ○をつけて下さい。また、そのように回答した理由なども記入してください。

①は「とてもいい授業です」という意味、②は「まあまあいい授業です」という意味、③は「まあまあ悪い授業です」という意味、④は「とても悪い授業です」という意味です。

項目	①	②	③	④	理由
1 授業の中で教える内容が中学で習った内容が多い。					
2 授業内容に興味関心がわき、おもしろいと感じることが多い。					
3 授業では主体的に自分の考えや意見を述べることが多い。					
4 授業の進め方がわかりやすい。					
5 授業中に話せる機会（発言）は多い。					
6 先生の指導や説明がわかりやすい。					
7 授業で習った内容がすぐに身につく。					
8 授業でのプリントや教材は興味を惹くようにできている。					
9 授業は丁寧でわかりやすい。					
10 プリントは授業に集中して取り読めるようにできている。					
11 授業に集中して聞いていない生徒への声かけは適切に行われている。					
12 授業で、覚悟して聞いていなければならないと感じたことがある。					

授業改善のためのアンケート用紙

授業評価表（自己） 授業担当者（ ） 生徒（ ）

項目（ ） ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

①：かなりやっている ②：たまにやっている ③：ほとんどやっていない ④：この授業では評価出来ない

項目	①	②	③	④
1 授業の位置は学年の特性に合わせたものになっている。				
2 授業のルールを明確にし、実践させている。				
3 授業の始めに、進め方や目標を提示している。				
4 1時間の中で時間を区切った構成になっている（説明の時間、問題解決の時間など）。				
5 授業の進め方がある程度統一化されている。				
6 生徒が集中したり、判断したりする活動を適宜、授業に取り入れている。				
7 生徒が黙したり、寝たりする活動を適宜、授業に取り入れている。				
8 生徒の意見を積極的に取り入れ、授業を進めている。				
9 ①～⑧を授業に効果的に導入している（※①～⑧は授業の導入部分で記入する）				
10 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
11 授業は興味を惹く、わかりやすい内容になっている。				
12 生徒の意見を積極的に取り入れ、授業を進めている。				
13 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
14 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
15 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
16 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
17 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
18 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
19 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
20 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
21 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
22 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
23 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
24 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
25 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
26 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
27 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
28 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
29 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
30 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
31 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
32 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
33 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
34 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
35 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
36 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
37 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
38 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
39 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
40 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
41 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
42 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
43 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
44 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
45 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
46 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
47 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
48 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
49 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				
50 ①～⑧の導入部分、授業の進め方、授業の進め方に気を付けている。				

※科目で現在かかっている問題や今後の課題、改善点があれば記述して下さい。
（授業改善に関することや、生徒への対応、教材など何でも結構です）

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

授業評価表

○ 実践の成果

本取組では、生徒のアンケートから「話し方」、「板書」の項目について高い評価が得られるなど、授業づくりに関して一定の成果を得ることができました。

また、発表することや話すことを苦手とする生徒が一定程度在籍していることが分かり、新たな支援を検討する取組につながりました。

今後は、全ての教科で共通した授業づくりをより一層推進していくとともに、全体への配慮と個別の支援の両面で考える授業づくりの深化を図るため、継続した取組を進めていくこととしました。

短い時間を活用した効果的な研修

幼稚園

教師の効果的なかわりについて 共通理解を図る取組

活用した資料

校内研修プログラム P45、P50

- －発達障がいの特徴の理解－
- －学級づくり－

○ 実践の概要

本園では、幼児が気持ちよく園生活を送り、幼児期における自律性をはぐくむための支援の在り方を探るため、園内研修でブレインストーミングなどを行い、幼児理解はもとより、指導や支援について検討を行いました。

〔事例1〕

- ① ビデオで撮影した日常の生活場面から、教師の支援でよかった点や印象に残る幼児の姿などを付箋に書いて貼り出しました。
- ② 「支援のチャンスだと感じた場面」「自分ならこうする」という視点で、気付いたことを付箋に書き出しました。



事例1 日常実践の振り返り

〔事例2〕

- ① 校内研修プログラムを参考に、日常の幼児の言葉の中で気になった言葉を貼り出し、それに対して「気持ちが相手に伝わる言い方、気持ちのよい言い方」を付箋に記入し、意見を交流しました。
- ② 意見を受けて、大切だと思った点について交流しました。
- ③ 上記②の中で、複数回出てきたキーワードを整理し、今後の支援で具体的に意識して取り組むことを交流しました。



事例2 キーワードによる課題の焦点化

○ 実践の成果

本取組では、全教職員が付箋を使って意見を出し合ったことにより、主体的に研修に参加することができました。教師自身の主体的な取組を通して、指導や支援のアイデアを得ることにより、教師の気持ちに余裕が生まれ、幼児が楽しく安心して過ごせる環境をつくり出すことができました。

また、日々の言葉がけについて交流したことにより、幼児に対して、より伝わりやすい言葉がけを増やすことができました。

継続して研修を行うことで、幼児への指導や支援において大切にしたいポイントを全教職員で共有することができ、校内支援体制の充実につながりました。

短い時間を活用した効果的な研修

小学校

個別の指導計画の作成に向けた 「ミニ研修」の取組

活用した資料
校内研修プログラム P20
－実態把握、支援方法の検討－

○ 実践の概要

学習面

聞く	() 関心のあることについては集中して聞くことができるが、関心のうすい話題であったりすると集中がそれやすく、聞き漏らしが目立つ。 () 授業中の姿勢が悪く、肘をついたり机に伏したりする。 () 教師の話を聞いて理解することはできるが、「もう1回言って」と言うことが時々ある。 () 話が長くなったり抽象的な内容になると理解できないことがある。
話す	() 内容を順序立てて話すことが苦手である。 () 話しているうちに話題が本筋からそれる傾向がある。

児童理解のためのチェックシート

本校では、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援について共通理解を図るため、校内研修プログラムを活用し、個別の指導計画の作成に向けた「ミニ研修」を実施しています。

研修では、はじめに、「児童理解のためのチェックシート」を活用し、特別な教育的支援を必要とする児童の実態を複数の教師で把握しました。

次に、把握した実態をもとに、より効果的な支援の方法について協議し、全体で共有した児童の実態や支援の方法を個別の指導計画に記入しました。

○ 実践の成果

本取組では、児童の実態を複数の教師で多面的に分析したことにより、児童の困っていることだけでなく、得意とすることについても把握することができました。

また、複数の教師で指導や支援について検討したことにより、学校全体で指導や支援の内容、方法について、共通理解を図ることができました。

個別の指導計画は、必要に応じて該当する箇所から記入するなど、記入できるところから少しずつ取り組むことにより、無理なく作成することができました。

短い時間を活用した効果的な研修

小学校

特別支援教育コーディネーターを中心として校内連携を促進する取組

活用した資料

校内研修プログラム P28

―校内の連携―

○ 実践の概要

本校では、通常の学級に在籍している、気持ちが不安定な時に教室を飛び出すことがある児童への対応について、学級経営交流会や生徒指導交流会等の機会に、校内研修プログラムに記載されている「校内の連携」の項目を活用した研修を行い、学級担任はもとより、学校全体での組織的な指導や支援の充実を図りました。

具体的には、特別支援教育コーディネーターが中心となり、「誰が」、「いつ」、「どのように」当該児童に指導や支援を行うのかを明確にし、一貫した指導や支援を行うようにしました。

Aくんへの教職員一人一人のかかわり

	学級担任	特別支援学級担任	養護教諭	特別支援教育コーディネーター	担任以外の先生
登校時	体調の確認	様子の観察			
授業中	・教室の中で過ごせるよう配慮した指導をする。	・個別対応が必要な時に学級担任に代わって指導・支援する。	・興奮している時は、クールダウンできるような、気持ちが落ち着くまで対応する。	・教室以外での当該児童の様子を把握し、学級担任に伝える。 ・教室を飛び出した場合、教室に入れるよう支援する。 ・教室に入れない場合は、保健室に行くよう促す。	
休み時間	・休み時間の様子を把握し、子ども同士がかかわれるように配慮する。			・学級担任と連携し、情報を整理する。	・休み時間の様子を把握し、学級担任へ報告する。
給食				・教室を飛び出した場合、教室に入れるよう支援する。	
下校時	・保護者に1日の様子を報告する。			・学級担任とともに、保護者の相談窓口となる。	
放課後	・特別支援教育コーディネーターに当該児童の様子を報告する。 ・支援方法について、評価改善する。	・特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援方法を学級担任に情報提供する。	・保健室での様子を特別支援教育コーディネーターに報告する。	・当該児童及び保護者の願い等の情報を整理し、全校に発信する。 ・支援の方法を学級担任と検証する。	・当該児童の情報を確認し、指導や支援の方策について、気付いたことを特別支援教育コーディネーターに報告する。

校内の連携が分かるシート

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育コーディネーターが、当該児童や保護者の情報を整理し、当該児童への指導や支援について、具体的に校内で共有することで、校内で組織的な対応ができるようになり、学級担任の負担を軽減することにもつながりました。

その結果、当該児童に対して、一貫した指導や支援を行うことができるようになり、当該児童は落ち着いて学校生活を送る場面が増えてきました。

短い時間を活用した効果的な研修

中学校

生徒の特性を把握する意義や方法への理解を深める取組

活用した資料
校内研修プログラム P33
－実態把握、支援方法の検討－

○ 実践の概要

項 目	内 容	該当する場合は○
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解できる。	
話す	話題から逸れずに簡潔に話すことができる。	
書く	メモを適度な時間で書き写すことができる。 文字の細かい部分を書き間違えない。	
計算する	時間がかからず計算できる。 答えを得るのにいくつかの手続きがかかる問題を解くことができる。	
推論する	図形を適度に描くことができる。 文章題を解くことができる。	
注意集中	気が散らず集中できる。 最後まで粘り強く課題に取り組むことができる。	
多動性	立ち歩かずにじっと座っていることができる。	
人とのかかわり	相手の感情や立場を理解し想像してかかわることができる。	

本校では、校内研修プログラムを参考に、「自己理解シート」を学校が独自に作成して全教職員が自分自身の得意なことや不得意なことをチェックする取組を行いました。

自己理解シートを活用した演習を行ったことにより、誰もが困っていることがあることを実感し、生徒一人一人の学習上の特性を把握する意義を確認しました。

また、「保護者への理解や生徒理解をどのように深めるか」をテーマに協議を行うことにより、保護者や生徒の心情に寄り添った指導や支援について理解や考えを深めることができました。

○ 実践の成果

本取組では、生徒の特性を理解する意義や方法を確認したことにより、生徒の実態を複数の教師で多面的に把握し、生徒の「よさ」や課題を全教職員で共有することができました。

また、共有した情報をもとに、生徒の「よさ」を生かした支援を行うなど、より効果的な支援に学校全体で取り組むことができるようになりました。

短い時間での活用

中学校

障がいについての保護者の理解を深める取組

活用した資料

校内研修プログラム P38、39

－学級づくり－

○ 実践の概要

本校では、特別支援教育に関する取組について、教職員一人一人が自分の言葉で説明できるよう、校内研修プログラム「障がいの理解」や「研修シートⅢ－１」を活用した校内研修を行っています。

特別支援教育に関する保護者のニーズは高く、「子どもにどのような支援が行われているか知りたい」や「学校での特別支援教育の在り方を教えてほしい」などの要望があったことから、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援について、保護者集会で説明する場面を設定しました。

保護者集会では、特別支援教育コーディネーターが、特別支援学級の活動を紹介するとともに、各学級担任が、通常の学級における指導や支援の取組を具体的に説明しました。

項目	学校の説明	保護者との交流
○ 本校の特別支援教育の取組を理解する。	○ 特別支援教育コーディネーターが、特別支援学級における実践はもとより、本校の特別支援教育の取組について説明する。	○ 特別支援教育コーディネーターは、特別支援教育にかかわる保護者からの質問に答える。
○ 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒について理解する。	○ 学級担任が、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援について具体的な取組を説明する。	○ 学級担任は、生徒一人一人の障がい等の実態に応じた指導や支援の状況について保護者に説明し、共通理解する。

保護者との取組交流シート



保護者懇談会の様子

○ 実践の成果

本取組では、保護者のアンケートより、「特別支援学級だけでなく、通常の学級でも特別支援教育に取り組んでいる様子が伺えた」や「特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援について具体的に知ることができた」等の感想が寄せられるなど、特別な教育的支援を必要とする生徒の支援への指導や支援について、保護者と共通理解を図ることができるようになってきました。

特別支援教育に関する研修会の実施

小学校

日常の実践を交流し、
教師の専門性の向上を図る取組

活用した資料

取組事例集 P31～73

—学級づくり、授業づくりの実践—

○ 実践の概要

本校では、「発達障がい支援成果普及事業」の成果を学校全体で共有し、実践することができるよう、日常の授業で必ず実践する取組を定めるとともに、研修計画に実践交流を位置付け、定期的に実施しました。

実践交流では、学習指導や生徒指導の取組はもとより、養護教諭や特別支援学級を担当する教員の実践を交流し、特別な教育的支援が必要な児童だけでなく、全ての児童の学びを支えるための効果的な方法について教職員間で情報を共有しています。



授業で必ず実践する内容



ミニプリントの配付



自分の考えを伝える工夫

実践交流の様子



全ての児童の学びを支える効果的な方法について共有しています。



健康診断を行う際の配慮



感情をコントロールする工夫

○ 実践の成果

本取組では、学校全体で多くの実践を共有したことにより、児童への指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得することができました。

また、様々な実践から、教師一人一人の指導や支援の方法を振り返り、改善策を検討したことにより、学級づくりや授業づくりで大切な「全体への配慮」と「個別の支援」の充実を図ることができました。

特別支援教育に関する研修会の実施

小学校

研修シートを活用した情報共有による 校内の支援体制づくりの取組

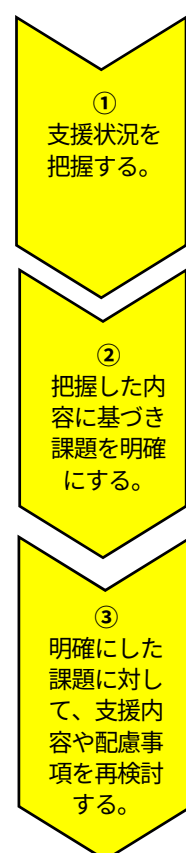
活用した資料

校内研修プログラム P28

―校内の連携―

○ 実践の概要

本校では、学級担任が学級の運営や授業を進めるに当たり、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童について、教職員間で相談し、連携しながら指導や支援が行えるよう校内研修プログラムを活用して教職員の役割等を整理しました。



研修シート（試案）Ⅲ－３ 校内の連携

	学級担任	特別支援員	学年団	特別支援教育コーディネーター	養護教諭
登校時					
授業中					
休み時間					
給食					
清掃					
下校時					

	担任	特別支援員	学年団	特別支援教育コーディネーター	養護教諭
登校時	児童で通学の方針を決定する	大規模な災害などの移動の際に必要となる		手帳や通学カードを提示し、通学を促す	
授業中	児童に合わせた支援を行う	児童の学習進度に合わせた支援を行う			
休み時間	児童の学習進度に合わせた支援を行う	児童の学習進度に合わせた支援を行う			
給食	一人一人の食生活の状況について把握する	必要に応じて、支援を行う			
清掃	児童に合わせた支援を行う	児童の学習進度に合わせた支援を行う			
下校時	児童の学習進度に合わせた支援を行う	児童の学習進度に合わせた支援を行う			

当該児童への支援や配慮を行う際は、学級担任が中心となることから、校内研修において、研修シートを活用し、学級担任以外の教員も含めてどのように関わっているのか、現在の支援内容や配慮事項について状況を把握しました。

複数の教員から得られた情報をもとに、対象児童の課題を明確にすることで、より客観的な実態把握をすることができました。

- 教職員全員が対象児童の課題や支援内容について共通理解を図ることができました。
- 学校全体で対応することにより、対象児童に対する支援や配慮の徹底が図られました。

○ 実践の成果

本取組では、特別な教育的支援を必要とする児童の指導や支援について、研修シートを活用し、実態把握から具体的な支援方法までを学級担任、特別支援教育支援員、学年団、特別支援教育コーディネーター、養護教諭で検討したことにより、校内の支援体制を整えることができました。

その結果、学級担任だけのかかわりから、学校全体での対応が可能となり、様々な課題に対する改善策が明確になってきました。

特別支援教育に関する研修会の実施

小学校

「温かい雰囲気づくり」を目指した取組

活用した資料
校内研修プログラム P24
一学級づくりー

○ 実践の概要

本校では、研究主題である「どの子にも『わかる』『できる』確かな学びを保障する授業づくり」の推進に当たり、学習規律の統一と温かい雰囲気づくりを目指した取組を進めています。

その取組の一つとして、校内研修プログラムや特別支援教育センターの研究紀要等を参考に、研修シートを作成し、実際の場面を想定した教師の言葉がけの工夫や非言語で伝える手法についての演習を行い、協議をしました。



研修の様子

	言葉がけ	好意に満ちた言葉がけ	非言語（環境・人など）
例 1	また A 君か！誰か怪我をしたらどうするの！危ないって言ったでしょ！	嫌なことがあったんだね。まずは座ろう。話を聞けよ。	いすを用意し、親身に聞く態度をとる。
例 2	うるさい！静かにしなさい！	話をやめましょう。音を立てないで、さあ、やってみましょう。	指を立てて「しー」のポーズ。静かに立って見つめる。
	また忘れ物か。明日持ってくるって言ったよね！		

研修シート

表情	☐ にっこり笑って ☐ 驚いた表情で ☐ うなずいて ☐ 大げさに
声量	☐ 大きい声で ☐ 通常の声で ☐ 小さい声で ☐ 声を出さずに
アイコンタクト	☐ 目で合図 ☐ 視線を合わせて ☐ 目を大きく広げて
動作	☐ 握手や拍手 ☐ 指でOK・○（丸）のサイン ☐ ハイタッチ ☐ 肩に手をかけて
タイミング	☐ その場ですぐに ☐ 集中が切れる前に ☐ 一言ほめてその場を離れる

非言語の「ほめる・認める」手法の例（北海道立特別支援教育センター研究紀要第 27 号より引用）

○ 実践の成果

本取組で行った演習を取り入れた研修は、教師自身の指導方法や児童の実態を客観的に振り返るきっかけとなるとともに、同僚の優れた指導方法や指導技術を学ぶよい機会になりました。

その結果、日常の言葉がけや学習規律の大切さはもとより、非言語による児童への賞賛など、児童が安心して学べる環境づくりについての教職員の意識が高まりました。

特別支援教育に関する研修会の実施

中学校

「相談支援フローチャート（学校版）」 の活用による校内体制の整備の取組

活用した資料
取組事例集 P 90～93
－相談体制の充実－

○ 実践の概要

本校では、保護者からの就学や進学に係る相談に対し、学校全体で共通した対応をすることができるよう、「相談支援フローチャート」を作成し、活用しています。

<保護者からの相談>

現在、特別支援学級に在籍していますが、将来、高等学校への進学を希望しています。小学校から中学校に進学する際、通常の学級に変更した方がよいでしょうか。

<保護者からの相談>

学習内容の理解が難しい、友達とのかかわりが上手にできないなど、学校生活の様子が気になります。今後どうしたらよいのか、相談したいのですが。

在籍変更等の相談の場合

在籍変更を希望する場合（通常の学級から特別支援学級など）

相談→知能検査

（児童相談所、特別支援教育センター、教育局巡回相談など）

知能検査や学校生活の様子を聞き取りながら、
本人の現在の状況について把握

在籍変更の意思確認（本人・保護者）

※在籍変更にあたっては、本人・保護者の同意が前提

教育委員会に変更の意思を伝える

→市の教育支援委員会で検討

→市の教育委員会が判断

→在籍の変更

かかわりについての相談の場合

保護者が子どもへのかかわりについて相談を希望する場合

保護者→担任、コーディネーター

内容の把握（授業面、友達との関係など）

パートナー・ティーチャー派遣事業の活用
指導や支援についてアドバイスを受ける

児童相談所、特別支援教育センターへの相談
知能検査等を用いて得意や不得意を把握する

管理職、担任、教科担当者へ周知

→支援する内容の検討、保護者への協力など

教職員に周知

→生徒指導や進路指導の実施

学校、地域、関係機関との連携

→手帳の取得など

◆□◆ 相談支援フローチャート ◆□◆

○ 実践の成果

本取組では、保護者の相談にきめ細かく応じるためのツールとして、フローチャートを用いて、対応の仕方を可視化し、学校全体で共有しました。

その結果、全ての教職員が教育相談に関する基礎的、基本的な知識について理解することができました。

特別支援教育に関する研修会の実施

中学校

特別支援教育スーパーバイザーを活用した校内研修の取組

活用した資料

校内研修プログラム P73

一箇別の教育支援計画の作成を

目指そう！ー

○ 実践の概要

本校では、教育局の特別支援教育スーパーバイザー（以下、「SV」）に特別な教育的支援を必要とする生徒が在籍する学級の授業参観を依頼し、生徒の実態を踏まえた学校生活における支援の工夫について当該生徒の担任が直接、指導助言を受けました。

その後、SVを講師とした校内研修において、発達障がいの特徴の理解やかかわり方のほか、自校に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への具体的な支援方法について助言を受けました。



授業参観の様子



個別の指導計画作成の様子



校内研修の様子

また、SVによる講義内容を踏まえ、自校に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒について、個別の指導計画を作成する演習を行いました。その際に、各授業における当該生徒の実態や、実施可能な支援方法について、当該生徒の指導にかかわる全教職員で話し合いを行いました。

○ 実践の成果

本取組では、教育局のSVによる授業参観や、校内研修における講義、個別の指導計画作成の演習を関連付けて行ったことにより、自校に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒に対する指導目標や具体的な支援方法について、理解を深めることができました。

また、学級担任や特別支援教育コーディネーターに加え、教科担当者など、全ての教員が校内研修や個別の指導計画の作成にかかわったことにより、特別な教育的支援を必要とする生徒に対して、共通の視点で指導や支援を行うことができるようになりました。

特別支援教育に関する研修会の実施

中学校

配慮が必要な生徒への支援の在り方を
学校全体で検討する取組

活用した資料

実践事例集 P35

一個別の教育支援計画を活用した
引継ぎの例一

○ 実践の概要

◎平成29年度 特別支援委員会

- ・ 構成員 特別支援教育コーディネーター、教頭、主幹教諭、養護教諭、各学年の特別支援学級担当者、学級担任
- ・ 内容
 - (1) 学校が独自に作成した「支援共通理解シート・スクリーニングシート」や通常の学級と特別支援学級の支援状況、各学年の打合せ等から要支援生徒の実態を把握する。
 - (2) 特別支援教育コーディネーターが主催し、特別支援委員会や支援会議を行う。
 - (3) 要支援生徒の状況（個別シート・個別の指導計画）を職員会議や研修会等で報告し、全教職員で共通理解を図るとともに対応策を検討する。
 - (4) 個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた支援を行う。
 - (5) 外部関係機関と連携し、専門家の指導助言を参考に、工夫を加えながら生徒を支援していく。
 - (6) 個人ファイルの管理を行う。（個別シート、個別の指導計画、個別の教育支援計画）

本校では、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への支援について、全教職員で共通理解を図り、実態把握に努めています。月に1回実施している特別支援委員会では、各学年、学級での生徒の様子や指導の経過などを交流し、当該生徒への指導や支援の方法を検討するなど、効果的な指導を行うことができるよう工夫しています。

【生徒の実態について】

〈文字について〉

- ☐ 文字が読みにくい（黒板・教科書・ノート）
- ☐ 漢字・ローマ字を書くのが困難
- ☐ 文字の大きさが揃いにくい

〈書くこと・読むこと・コミュニケーション〉

- ☐ 聞いたことを忘れる
- ☐ 先生の話している内容を理解するのが困難
- ☐ 教科書を読むのが困難

【配慮事項について】

〈書くことについて〉

- ☐ 代読
- ☐ ルビ
- ☐ 学習しやすい座席
- ☐ パソコンによるノートテイク
- ☐ 代筆
- ☐ 大きなます目のノートの使用

「支援共通理解シート・スクリーニングシート」

○ 実践の成果

本取組では、生徒の様子や指導の経過などの交流を積み重ねることにより、教職員の特別支援教育に対する意識が変化し、通常の学級にも特別な教育的支援を必要とする生徒が在籍しているという認識のもと、生徒の生活上又は学習上の困難さに気付けるようになりました。

月1回の会議や個別シートに基づく報告や、個別の指導計画の作成を通して、特別な教育的支援を必要とする生徒への理解が深まり、日常の授業や生活の中で教職員が当該生徒への必要な指導や支援を行うことができるようになりました。

特別支援教育に関する研修会の実施

中学校

グループワークを取り入れ 互いの指導方法を交流する取組

活用した資料

校内研修プログラム P33

—実態把握、支援方法の検討—

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解を深めるため、特別支援委員会が中心となり、定期的に研修会を実施しています。

この研修会では、特別支援教育の専門家を講師として招へいし、支援を必要とする生徒の障がいの特性や具体的な支援方法について学ぶ内容を計画的に位置付けています。研修では、下記のシートを活用し、各教員が授業や日常生活の中で感じていることを出し合いながら指導方法を検討しました。

教員が右の項目に該当する「自分の考えや実践していること」をカードに記入し、意見交流を行いました。



研修の様子



グループワークの様子

個別の指導計画		氏名		〇〇 〇〇		生年月日		平成〇〇年〇〇月〇〇日生		学年・組		第 〇 学年 〇 組	
氏名	性別	氏名	性別	氏名	性別	氏名	性別	氏名	性別	氏名	性別	氏名	性別
現 在 の 実 践	子どもの よさ・特性	空いているところ		▲困っているところ		・できそうな予定で							
		◎言葉が上手		▲指にふさわしい発音ができない									
		◎きりげない優しきがある		▲物事を二分法で解決する(白か黒か)									
		◎好きなことは一生懸命 ◎人なつこい		▲自分の都合のよいように解釈する									
現 在 の 実 践	健康面	◎運動能力が高い		▲性的発言が多い		・休みを入れる							
現 在 の 実 践	行動面	◎行動力がある		▲落ち着きがない		・いいことをしたときに目 ほめる(褒め)							
		◎2人で話すときには正直		▲不適切な発言がある		・活動したときをねらって ほめる							
		◎手伝ってくれる		▲片付けられない									
		◎向上心がある		▲理解できない									
現 在 の 実 践	生活面	◎遅刻をしない		▲まわりを気にしない		・不適切な発言があるとき には「イエローカード」 と言う							
		◎頑張るときには頑張る		▲他の生徒に対して後ろから抱きついたり、嫌なことをする		・ファイルを利用して忘れ 物を少なくする(一覧表 作成)							
				▲時間配分ができない、忘れ物多い									
学 習	国語	◎授業の反応がよい		▲説明を最後まで聞けない									

実態の分析と指導の方向性

授業時にやれそうなお事

- ・指導は端的に指示する
- ・監視の目を避ける
- ・説明は短時間に簡単に
- ・説明を継続して行う

グループワークの内容及び作成した資料

○ 実践の成果

本取組では、研修で学んだことを生かして、各教員が生徒への日常的なかかわり方や指導方法を工夫することにより、学校全体の特別支援教育への理解が深まりました。

また、特別な教育的支援を要する生徒の実態をもとに、生徒指導と関連付けた研修を行ったことにより、教職員が指導する際に困難と感じていた事案について、具体的な対応方法を学ぶことができました。

その結果、生徒の授業態度にも変化が見られ、学習意欲が高まっています。

特別支援教育に関する研修会の実施

高等学校

生徒が抱える困難さを理解するための校内研修の取組

活用した資料

校内研修プログラム P45
－発達障がいの特性の理解－

○ 実践の概要

本校では、一斉指導における学習活動や学習内容の理解に困難さを示す生徒が多数在籍していることから、全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりを行う必要がありました。

そこで、教育局の特別支援教育スーパーバイザーの講義を通して、学習面や行動面に困難さを抱える生徒の理解を深めることとしました。

具体的には、校内研修プログラムを活用し、特性に配慮した指示、説明、発問の工夫について演習と協議を行いました。



研修の様子

《演習・協議》

① 教師役が、次の長い文章を早口で説明しました。

明日は、バスで町内の名所をめぐる予定です。注意することは、
「先生から目を離さないこと」
「はぐれないよう、グループで一緒に行動すること」
「勉強に関係ない無駄話をしないこと」です。

② 教師役が、説明内容について、淡々と質問しました。

- ・注意することの2番目は何でしたか。
- ・持ち物は全部でいくつありましたか。
- ・昼食の時の約束は何でしたか。

③ 振り返り

- ・答えられない時はどんな気持ちでしたか。
- ・そのような気持ちにさせないための配慮として、あなたはどうしますか。

《演習の振り返り》

- ソフト面に関する配慮 ⇒ 簡潔に話す、何点話すかを予告する、途中で復唱し確認する、隣の生徒と確認し合うことが重要
- ハード面に関する配慮 ⇒ 教師はプリントの配付や要点を板書するほか、生徒に対してメモをとるなど記録することを促すことが重要

○ 実践の成果

本取組では、演習を行ったことにより、「一見、指示や説明を聞いて理解しているように見えても、取組や行動に移せない生徒の気持ちが理解できた」「短期記憶や集中できる時間は一人一人異なり、それぞれに応じた配慮が必要であると感じた」などの感想が寄せられました。演習で感じたことを指導や支援に生かすことにより、「生徒が教師の方を向いて話を聞くようになった」「動作の取り掛かりがスムーズになった」など、生徒の様子に変化が見られるようになりました。

特別支援教育に関する研修会の実施

高等学校

全体への配慮を充実させた 分かりやすい授業づくりの取組

活用した資料

実践事例集

ー通常の学級における特別支援教育
の視点を生かした実践の考え方ー

○ 実践の概要

○ 校内研修の実施

- ・「全体への配慮」について
- ・実践事例の紹介
- ・授業での実践に向けて



○ アンケートの実施（教員対象）

- ・指導の工夫について
- 誰もが分かりやすい授業づくりのための工夫の共有

（アンケート結果）

- 指示の明確化を図る工夫
 - ・指示は一度に一つとする。
 - ・映像など視覚的な支援を工夫して伝達する。
- 板書の工夫
 - ・主述の明確な文章を示す。
 - ・重要度、用途により色を使い分ける。
 - ・作業の流れを表示する。

本校では、全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりを実践するため、実践事例集を参考に、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて校内研修を行っています。

校内研修では、授業場面における「全体への配慮」について学び、分かりやすい指示や板書など、生徒の実態に応じた取組を進めています。

また、授業で実践したことについて、教職員を対象としたアンケートを実施し、実践の成果と課題を全教職員で共有しています。

○ 実践の成果

本取組では、全体への配慮を充実させたことにより、どの生徒にも分かりやすい説明や指示、発問をすることができるようになりました。

その結果、特別な教育的支援を必要とする生徒においても、学習内容の定着が見られました。

また、全ての教職員で特別支援教育の視点を取り入れた授業の工夫について共通理解を図ったことにより、学校全体の授業力の向上につながりました。

特別支援教育に関する研修会の実施

高等学校

関係機関との連携による ICTを活用した遠隔研修の取組

活用した資料

校内研修プログラム P75

－発達障がいのある子どもへの指導
や支援に関するICTの活用－

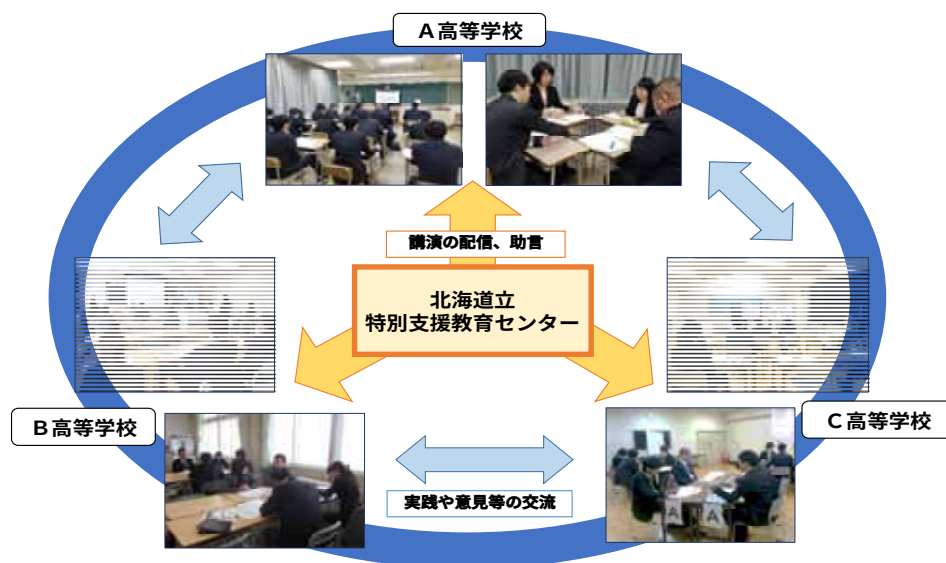
○ 実践の概要

本校では、管内の道立高等学校2校、特別支援学校及び北海道立特別支援教育センターと連携し、遠隔授業システムを活用した特別支援教育に関する合同研修会を実施しました。

本研修では、本校及び管内の道立高等学校2校を会場とし、遠隔授業システムを用いて、北海道立特別支援教育センターの所員による講義を各会場に配信し、通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒への指導や支援の在り方等について理解を深めました。

また、講義後、各会場において、管内の特別支援学校の教員をファシリテーターとしたワークショップや実践交流を行い、各校における今後の支援方策などについて協議を行いました。

本研修には、当該高等学校の教員だけでなく、近隣の小・中学校の教員も参加したことにより、児童生徒の発達の段階に応じた支援の方策について意見を交換するとともに、小・中学校と高等学校が連携した取組の重要性について共通理解を図ることができました。



○ 実践の成果

本取組では、研修会に参加した教員から、「発達障がいのある生徒がどのような場面で困難を感じているのか、理解を深めることができた」、「児童生徒理解を深め、学校全体で共通理解を図るとともに、連携して支援する必要がある」、「他校の実践や先生方の意見を聞くことにより、自校の取組を見直すことができた」、「遠隔授業システムを活用して、他校との協議や意見交流を今後も実施したい」などの感想が寄せられるなど、ICTを活用した、効果的な研修を行うことができました。

特別支援教育に関する研修会の実施

高等学校

個別の移行支援計画を活用した キャリア教育の取組

活用した資料

校内研修プログラム P46、47

- －実態把握、支援方法の検討－
- －個別の指導計画の作成－

○ 実践の概要

本校では、特別支援教育の充実に向けた定期的な校内研修に取り組んでいます。

本年度は、管内の特別支援学校と連携し、キャリア教育の視点を踏まえた指導や支援について、特別支援学校の教員を講師とした研修を行いました。

講師からは、特別支援学校の実践例をもとに、特別な教育的支援を必要とする生徒へのキャリア教育の重要性について説明がありました。

その後、実践例を参考に、本校における特別支援教育の充実を図るため協議を行いました。

協議した内容を踏まえ、生徒の社会的自立や円滑な就労に向けた支援計画である「個別の移行支援計画」の作成方法、キャリアカウンセリングの演習などを行い、実践的な指導力の向上を図りました。



講師による説明の様子



演習の様子

個別の移行支援計画				
本人プロフィール				
氏名		フリガナ		性
保護者		フリガナ		
住所				
(保護者)				
手帳	(平成 月 日交付)			通
学校	高		中	
将来の生活についての希望 (仕事、生活、余暇等)				
				保護者
必要な具体的支援内容				

個別の移行支援計画 (抜粋)

○ 実践の成果

本研修では、効果的な実践例や演習をもとに、キャリア教育の視点を踏まえた指導や支援について理解を深めるとともに、生徒の自立や社会参加を目指し、計画的、系統的な指導を充実させることについて、学校全体で共通理解を図ることができました。

また、生徒の実態に応じた個別の移行支援計画を作成することにより、生徒の自立や社会参加に向けた、校内におけるきめ細かな支援や関係機関との連携の重要性について、共有することができました。

特別支援教育に関する研修会の実施

高等学校

発達障がいの特徴を理解する 校内研修の取組

活用した資料

校内研修プログラム P45、P50

－発達障がいの特徴の理解－

－学級づくり－

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援の充実に向けて、校内研修プログラムを活用し、「発達障がいの特徴の理解」や「好意に満ちた言葉かけ」の演習などに取り組みました。

校内研修では、障がいの特性に応じた指導や支援、共感的な姿勢を大切にしたい望ましい言葉かけについて取り上げ、研修後には、教職員で共通理解を図り、指導を行っています。

	「言葉かけ」	「好意的な言葉かけ」
例1	「また〇〇君か。誰かがケガをしたらどうする、危ないって前にも言ったでしょ。何回言ったら分かるんだ。」	「〇〇君。嫌なことがあったんだね。まず座りなさい。話を聞きますよ。」
例2	「この学級は、忘れ物をする生徒が多い最低のクラスです。」	「この学級は忘れ物をする生徒は多いけど、授業の集中力は全校で1番良いね。あと、先生からのリクエストだけど、忘れ物をしないようにメモしておくといいよ。」
例3	(意見が出ない状況で) 「いつになったら学級目標は決まるんだ。」	先生方の意見 「まず、どんな意見でもいいのでたくさん出し合おう。それから、みんなの意見をまとめてみよう。」
例4	「本当に文句の多いクラスだな。」	先生方の意見 (まず傾聴、受容してから) 「〇〇さんは、どうしたらよいと思う？」

研修で使用したワークシート

○ 実践の成果

本取組では、特別な教育的支援を必要とする生徒の学習上、生活上の困難さについて、その背景を大切にしたい指導や支援を行うことを教職員間で共通理解しました。

また、生徒一人一人の多様な実態を踏まえた授業づくりやクラスづくりの工夫として、分かりやすい指示や言葉かけの大切さについて共通理解することができました。